

15

豊川

豊川市立一宮西部小学校

かとう しげき
加藤 誠貴

分科会番号

01a

分科会名

国語教育（文学その他）

研究題目

自分ごととして課題を捉え、根拠をもって自分の考えを深めることができる国語科の授業
～「それでも、言葉を」の実践を通して～

研究要項**1 はじめに**

子どもたちと雑談をしているなかで、「数学は答えがバシッと出る瞬間が気持ちいいよね」という言葉を耳にする。国語教師として「国語は？」と聞くと、「国語は答えが一つじゃないから苦手、正解してもすっきりしないというか……」と口ごもるのである。

国語の授業中、グループで意見を出し合ったあとに挙手を求めても、特定の数名の生徒に限られるという状況がある。また、話し合いを進めていくなかで、一部の生徒の意見を聞き、一度は文章を根拠に考えた自分の意見を変えて、友達の意見を取り入れてしまう様子も見られる。答えが一つに定まらないという、子どもたちが認識している国語科の特性が、答え方の曖昧さ、自信のなさにつながっているのである。

野口芳宏氏は、「理解を充分にした上で初めてその表現は力を持つ。『読み、書き、算盤』と言い、『読、書、算』と称して『基礎学力』とするのが世界共通の認識である。十分に『聞いて（理解）してから話す（表現）』べきだし、十分に『読んで（理解）から書く（表現）』べきなのである。現在の国語学力の領域構造は、『話すこと・聞くこと』となっている。理解・受容の『聞く』が、表現・表出の『話す』の後になっている。」（国語教育 2024 年 12 月）と述べ、現在の国語教育の課題について触れている。書く、話すなどの表現力が求められる社会ではあるが、その土台となる「読む」がなければ、自信をもって表現をすることなどできない。

2025 年 9 月には、教育課程企画特別部会から、論点整理が公表された。その中の次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる基本的な考え方として、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を育むため、主体的・対話的で深い学びの実装、多様性の包摂、実現可能性の確保の三つの方向性が示された。三つの方向性を端的に表すと、論点整理では、「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」するという一つの方向性が示されたのである。

これらのことから、自分ごととして捉えさせる授業をしていくなかで、自分で考えた意見に責任と自信をもち、意見の説得力をもとに相手の意見を取り入れ、考えを深める姿を期待して、本研究の主題「自分ごととして課題を捉え、根拠をもって自分の考えを深めることができる生徒」とし、目ざす生徒像を次のように設定した。

2 研究の構想**（１）目ざす生徒像**

自分ごととして課題を捉え、根拠をもって自分の考えを深めることができる生徒

（２）研究の仮説と手だて**【仮説Ⅰ】**

単元との出会いにおいて、自分が抱いた疑問から課題設定を行わせることで、生徒は自分ごととして課題を捉えることができるようになるだろう。

手だて① 生徒が初読の感想を書いた後、疑問に思ったことをひとつ選び、授業ごとに確認がしやすいように葉にする。

手だて② 本時のキーワードを提示し、生徒が自分なりの目標をそのキーワードを使って振り返りを書く。

【仮説Ⅱ】

課題の解決場面において、意図的な音読やペアワークやグループワークを行うことで、生徒は自分の考えに自信をもち、根拠をもって考えを深めていくだろう。

手だて① 課題解決のための視点を与える、意図的な音読を行う。

手だて② 情報を整理し、具体化したり、根拠をもとに深めたりするペアワークやグループワークを行う。

3 単元構想（全5時間）

○学習活動 ・ 生徒の反応	◇教師の支援と留意点 ☆評価
初読の感想をもとう① ○初読の感想をもち、単元の課題を考える。 ・抽象的な語句が多い。具体例を考えて、理解したい。 ・筆者がどんな考えをもっているか、いまいち理解できていない。今後書いている内容を考えていくなかで、筆者の主張がどこにあるのか、理解を深めていきたい。 ○対になっている言葉を探す。 ・言葉であおる人たち⇔言葉の前で身をひく人たち ・ファクト（事実）⇔フェイク（でっちあげ） ・なんでこんなに対になっている言葉が多いんだろう。	◇抽象的な語句が、文章の読み取りを難しくしていることを捉えさせ、具体例を考えていく活動への見通しをもたせる。 ◇通読し、納得・共感できる部分には傍線、納得・共感できない部分には波線を引かせることで、文章全体の理解度を可視化させる。 ◇語句の理解を深めるために、対になっている言葉を探す活動をするなかで、タブレット端末や辞書を用い、その言葉がどのような意味であるかを共有させる。
例示の意味を考えよう② ○対になっている言葉が、何を説明するために例示されているのか考える。 ・「言葉の惨状」を説明するためかな。 ・「言葉の惨状」とは、言葉や価値が二極化していることだね。	☆自分の考えたことを友達と共有し、友達から学んだこと、考えたことを自分のなかに取り入れることができたか。（グループ活動、ノートの記述）
筆者の提案について考えよう③④ ○「今、求められている言葉」とは何かを考える。 ・「互いに適切な距離を測りつつ、触れるか触れないかのあわいで探り合う言葉」かな。 ・「多様なグラデーションを許容する言葉のありよう」も筆者は大事だと考えていると思うよ。 ○題名に込められた筆者の思いを考える。 ・それでも、言葉を「大切にしよう」かな。 ・「いま、価値が二極化している世界だけど」という前置きがありそうだね。	◇「今、求められている言葉」について、考えることが難しい生徒には、筆者が、言葉と思考が二極化している現状に否定的な立場をとっていたことを振り返らせ、二極化とは反対であることがわかる表現を探させる。 ◇題名の前後に付く言葉を考えさせることで、題名の意味を考えさせる。その後、筆者の考えを捉えるために、題名の「それでも」に込められた意味から、筆者の考えに迫らせていく。
言葉とどう向き合うかを考えよう⑤ ○言葉とどう向き合うか、考える。 ・普段何気なく言葉を使っていたけれど、相手のために言葉を使うことはできていなかったように思う。これからは、言葉の先に人間がいることを理解して言葉を使っていきたいと思う。 ○人と関わる際に、自分が大切にしたい言葉を考える。 ・「ありがとう」は何かをされたから使う言葉ではなくて、自分が相手にされてうれしいと感じられる感覚をもって生きることが大切だと思う。 ・「こんにちは」は、お互いを認めあう挨拶にしたい。	◇言葉とどう向き合うかを考えさせていき、筆者の考えを明確にし、その考えに対して自分がどう思うか、何を大切にしたいかを考えさせる。 ◇自分が大切にしたい言葉を考えるなかで、どのような気持ちを大切にすることを書かせる。 ☆見通しをもって学習課題に取り組み、自分の考えを広げたり、深めたりすることができたか。（グループ活動の様子、ノートの記述）

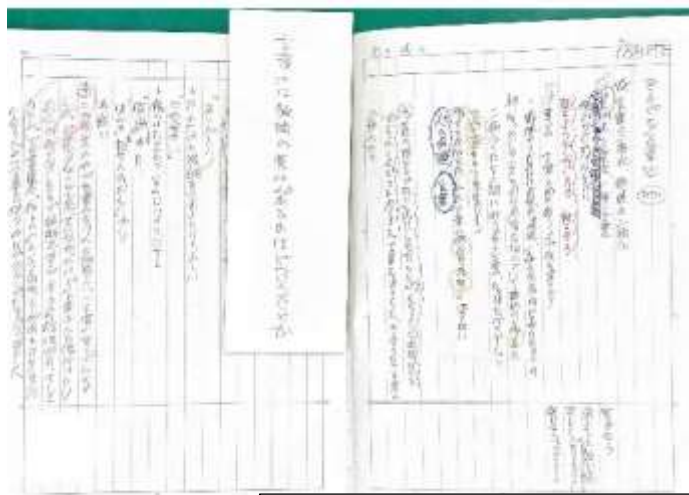
4 研究の実際

(1)「初読の感想をもち、単元の見通しをもとう」(第1時)

本単元の導入として、本教材の題名に使われており、メインテーマでもある「言葉」についての印象を聞いた。生徒は思い思いに話し合いを始め、「相手を励ますことも傷つけることもできるのが言葉だよ」「自分の言いたいことが上手く伝えられなくてもやもやすることがある。言葉なんて通さずに自分の思いが伝えられたらいいのに」など、「言葉に対するポジティブな面とネガティブな面を日々の生活の中で感じ取っている様子」がうかがわれた。

初読の際には、自分が共感や納得のできる表現に傍線を、わからない部分や疑問に思った表現に波線を引くように指示をした。これは、初読後の感想を書く際の手がかりにするためや、今後の質問に対して教科書から根拠を探す際の補助に使うためである。

ある生徒は、共感や納得のできる文として、「自分に向けられた言葉に反射的にメッセージを返してしまう」「口調や声によって、相手が本当に言いたい何かに気づかされることが多い」「わかりやすい言葉、わかりやすい説明にすぐに飛びついてしまう」という箇所に線を引いた。一方、わからない部分や疑問に思った部分として、「言葉そのものの惨状にめげそうになっている」「露骨な差別や捨てぜりふ、居直りとして礫のように投げられたり、……」「隙間という意味での『あそび』がなくなってきた」「戦争の足音が遠くから響いている」「フックとなって次の思考が始まればいい」といった箇所に線を引いた。ある生徒が共感した部分は、筆者が自身の考えを読者に具体的な表現を用いて示した箇所であり、一方で疑問に思った部分は、筆者が自身の考えを抽象的な表現を用いて示した箇所である。生徒たちは、共感したところ、疑問に思ったところをもと



【資料1 疑問葉の使い方】

に、自分が本単元を通して解決したい課題を葉に書き記した。

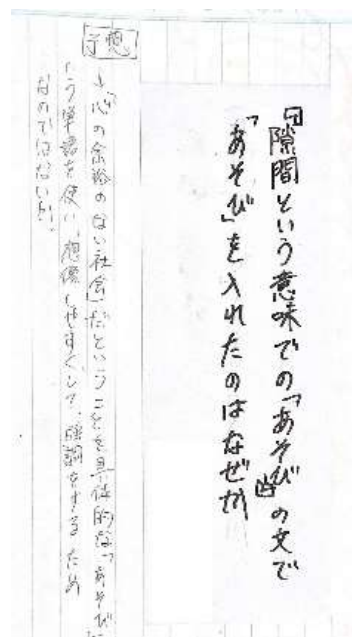
また、本単元の目標として、「具体例から抽象的な概念の理解をする」「筆者の考えから自分の意見をもつ」と提示し、本単元を通して、具体と抽象の行き来をしながらその意図を考え、筆者の考えを読み取っていくことを示した。

(2)「対になっている言葉の意図を考えよう」(第2時)

第2時では、対になっている言葉を列挙する活動を行うため、意図的な音読から始めた。本時における意図的な音読とは、名詞だけを大きな声で強調して読む読み方を指しており、生徒たちは名詞を意識しながら本文を読み進めることができていた。

その後、本時のキーワードとして、「二極化」ということばを示し、めあてを考えさせた。ある生徒は、本時のめあてを、「二極化とは何かを知る」と設定していた。その後、「対になっている言葉は、何を伝えるために例示されているか」という発問をした。

二極化という言葉の意味を共有した後、対になっている言葉を確認しながらグループで話し合った。グループでは、前時に線を



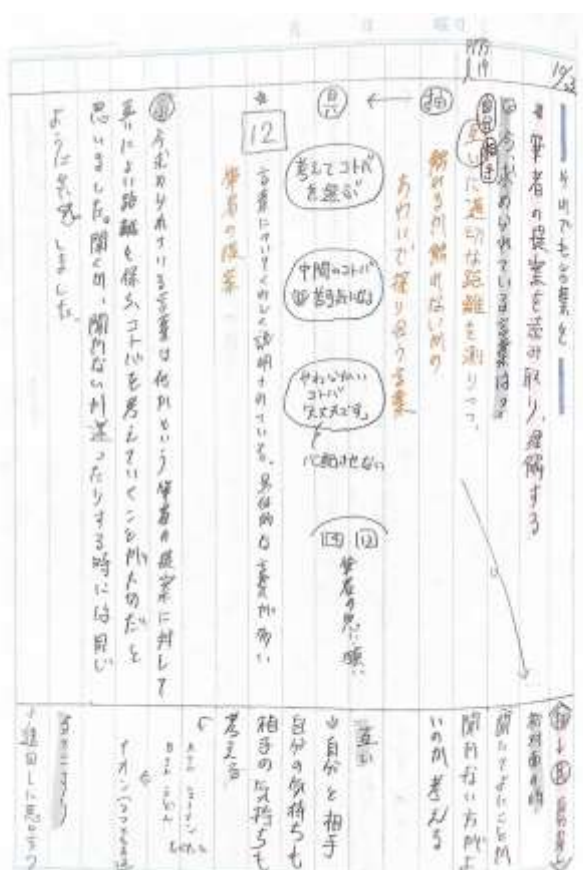
【資料2 疑問葉の記入例】

引いた、共感できる部分や共感できない部分をもとに、例示された意図を考えた。最初、「二極化」の意味がわからず困っていた生徒も、グループで交流するなかで、言葉の二極化と価値の二極化との相関関係に気づいていた。その後、「隙間という意味での『あそび』とはどういう意味か」について考えた。疑問葉でこの箇所を本単元の課題として挙げていた生徒は、自身が教科書に引いた傍線をもとに、「あそび」の言い換えとして、「心の余裕」という言葉を見つけていた。このことから、自分が初読の感想時にもった疑問に対して、自分ごととして捉え、積極的に課題に向かっていることがわかった。

(3)「筆者の提案を捉えよう」(第3時)

第3時では、キーワードとして、「筆者の提案」という言葉を設定した。ある生徒は、自己設定する目標を「筆者の提案を読み取り、理解する」とした。本時最初の質問として、「今、求められている言葉は？」と黒板に書いた。音読活動に入る前に考えるべき問いを示すことで、目的意識をもって音読活動をさせるねらいがある。

生徒は、ペアで点丸読みをしている最中にも、筆記用具をもち、最初の質問を考えるヒントとなりそうな箇所を丸で囲っている様子が見られた。音読後、2分ほど時間を取ったあと、最初の質問での答えを全体に聞くと、7割ほどの生徒が答えを書いている様子だった。生徒は、「互いに適切な距離を測りつつ、触れるか触れないかのあわいで探り合う言葉」という答えを出し、多くの生徒が、その意見に賛成の意を示した。



【資料3 「筆者の提案」についての生徒の記述

ここで、「あわいで探り合うってどういう意味？」「どんな言葉なの？」と切り返すと、沈黙が生まれた。「なんで、わかりにくいんだろう？」と確認すると、ある生徒は、「抽象的だからです」と答えた。その発言から、今、求められている言葉の答えを、具体的に表現するグループ活動を行った。生徒Aのグループでは、「互いに適切な距離を測りつつ、触れるか触れないかのあわいで探り合う言葉」を、優しく言い換えるとどうなるかという視点と、具体的にどのような言葉があてはまりそうかという2つの視点で話し合いを進めていった。全体の交流の場では、「互い」という言葉に注目が集まった。探り合うという述語に対する主語が、「互い」であること、「互い」とは相手と自分のことであることを確認した。つまり、「自分の気持ちも考えるし、相手の気持ちも考える言葉」とであると定義した。一見考えるための取っかかりがないように思える抽象的な文章でも、情報を整理させ、グループで具体例を考えさせることで、筆者の提案に近づいた様子が見られた。

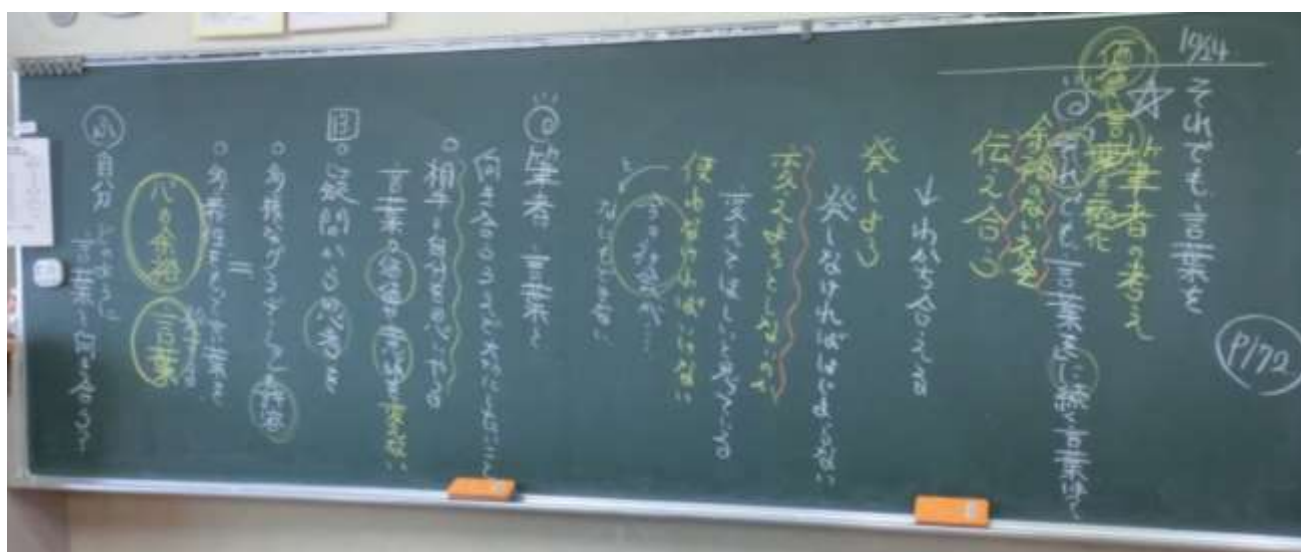
(4)「題名の意味を考えよう」(第4時)

本時では、題名の意味を考えることで、筆者の考えを探る活動を行った。筆者の提案が詳しく説明されている 12 段落は、ペア点丸読みを行わせ、本文中に線を引くなど、読み取りのヒントになるであろう箇所を探していた。

本時でも、第 3 時と同じくキーワードとして、「筆者の考え」という言葉を設定した。「筆者の考えを探る」「筆者の考えに共感する」「筆者の考えと題名のつながりを考える」など、各々の課題を見つける姿が見られた。筆者の考えが、題名とつながることが多いことに触れ、本時ではまず、本教材の題名である「それでも、言葉を」に続く言葉を考える活動を行った。根拠をもって話し合いに臨めるように、理由を含めて言葉を考えさせた。

あるグループでの話し合いでは、「前回の授業で“互いに探り合う”という言葉が、キーワードになったから、お互いという意味の言葉はないかな」と発言した。グループの中では、答えが出なかったが、グループとして「互いに」という意味を含んだ言葉のほうが、筆者の思いをより適切に表しているのではないかと、という課題をもって全体共有に臨むことになった。そのグループのメンバーは、全体共有の場で意見を出し合った際、「互いに」という意味を含んだ「伝え合う」という言葉に強く共感をし、ノートに強調して書く工夫が見られた。課題を念頭に置いて、全体共有の場に参加していることがわかった。

また、「筆者が言葉と向き合ううえで大切にしたいことは何か」という発問に対しては、13 段落から引用し、「引っかかる疑問から思考を始めていくこと」「多様なグラデーションを許容すること」「相手や自分を思いやる言葉の価値や意味を変えないこと」などの意見が出た。相手や自分を思いやるために、必要なことは何か、という補助発問に対しては、「心の余裕をもつこと」「言葉を大切にすること」という意見が出た。前時では、12 段落に筆者がもっとも伝えたい文章、筆者の提案が書かれており、13 段落以降には、筆者の思いや願いが書かれているということを読み取った。段落の内容から判断し、筆者が大切にしたいことを見つけ出し、前時で確認をした各段落の意味や意図を読み取ったうえでの発言する姿が見られた。ある生徒は、振り返りの中で、「筆者の考えから（筆者の考えをふまえて、）言葉が二極化しないように、自分と相手の互いの意見を大切にしていきたいと思いました」と記述し、「そのためにも、心の余裕をもって言葉を発し、伝え合っていくべきだと思います」と続けた。前時からキーワードになっていた「探り合う」「互いに」という言葉を軸に、思考をし、自分の意見をもつ生徒の姿があった。



【資料 4 題名についての話し合いの板書】

(5)「言葉とどう向き合うか考えよう」(第5時)

単元の最後の活動として、自分が大切にしたい言葉を考える活動をした。ある生徒は、「ありがとう」という言葉を挙げ、理由として、悪い意味では使われないことと、相手も自分も言われたらうれしい言葉であること、そして、筆者が危惧していた二極化をしていない言葉であるという点を挙げた。それ以外の生徒の意見としては、「ごめんなさい」という言葉を挙げ、理由として、相手を傷つけたときにはもちろん言うが、言わなくてもいいような行動を常にするべきだという意味で大切にしたい、という意見を挙げた生徒もいた。さまざまな意見は出てきたが、どの生徒も自分と相手の両方に意識を向けた理由をもとに考えを広げる姿が見られた。

ある生徒は、単元のまとめのなかで、「隙間という意味での『あそび』の文で『あそび』をわざわざつけたのは、心の余裕のない社会だということを強調したかったからなのかなと私は思いました」と記述していた。疑問葉に自分が書いたことをもとに、自身の思考を広げ、教科書の記述を根拠に、自分の意見をもつ姿が見られた。

また、この生徒は続けて「この単元を通して、相手だけでなく、自分のことも思いやれるように周りを見て行動し」たい。と記述した。「互いに……探り合う」という視点を発展させて、自分も大切にすし、相手も大切にすという前提で、相手に合わせ過ぎるのではなくて、自分の軸をもったうえで相手と関わることの大切さに気づいたことがわかった。

5 成果と課題

【仮説Ⅰについて】

生徒が初読の感想を書いた後に自分なりの疑問を記述することで、自分がもった疑問だから解決したいという思いをもち、課題に向かう姿を見ることができた。課題解決のタイミングが単元の中盤にあった生徒は、単元後半のモチベーション低下が懸念されたが、解決後も自分の課題の答えをもとに、思考を広げていく姿が見られた(手だてⅠ-①)。

提示されたキーワードから自分なりに本時の目標を設定することで、本時を貫く自分なりの課題を探索する姿が見られた。また、授業の終末に行う振り返りやまとめの活動の際にも、授業の初めで提示されたキーワードを用いて思考を広げ、本時とのつながりをもったうえで考えを深める姿が見られた(手だてⅠ-②)。

【仮説Ⅱについて】

生徒は授業の導入で音読を行う際、その意図を意識して活動に取り組むことで、課題へ向かう手がかりとし、スムーズに課題に向かうことができた(手だてⅡ-①)。

自分の考えをもったうえでグループで話し合い、全体で共有することは自分の意見を検討し、自信をもつうえで有効であると感じた。一方、自分の考えをもてないままグループでの話し合いになってしまう生徒も見られた。生徒が当事者意識をもつためにも、自分の考えを一つでももつための支援が必要だった(手だてⅡ-②)。

6 おわりに

本研究で、目ざす生徒像に向けて取り組んだ際、次のような課題も明らかになった。

こちらの意図で音読を行い、課題を与えることは、ある意味では考え方を限定的にしてしまうこともあり、視点の与え方について、考え方が狭まってしまった場面があった。はじめは「こういう時にはこういう視点で考えるとよい」ということを伝えるのも大切だが、生徒の多様な考え方を削ってしまわないようにしたい。

また、キーワードを用いた自分だけのめあての設定や自分だけの疑問をもつ活動においては、「授業が終わったあとに、自分のめあての設定が甘かったことに気がついた」「めあての設定を最初にするのは難しい」などの意見も出ており、活動のアップデートが必要であると感じた。本研究で明らかになった成果と課題を今後の自分自身の教育活動に生かしていきたい。そして、生徒がよりいっそう課題に向かい続け、自分の考えをアップデートしていけるよう、日々努力を重ねていきたい。